

科学・技術と市民連続講座
—科学史技術史の視点から—

2011年度 **福島原発事故で何が起きたか、何が問題なのか**

第1回開催 7月2日(土) 18:00-

中野区勤労福祉会館大集会室

主催：特別非営利活動法人 科学史技術史研究所

東京都中野区野方1-29-1 B-101

ホームページ：<http://ihst.jp/> メール：ihst@ihst.jp

電話 080-5901-0730

先日、東京では(23)区が、独自に放射線量を測定することを決めたように、福島第一原発からの放射性物質の放出は依然として止まっています。格納容器冷却のための給水はなおも難問で、汚染水は増え続け、その処理能力の限界も懸念されています。原子炉建屋内では、高いレベルの放射性(瓦礫)物質もあり高い湿度の中で、原子炉の安定的冷却状態を作り出すための「決死」の作業が続けられています。しかし、なお作業は、被曝の問題をかかえ、楽観を許さない状態が続いています。



政府は、「直ちに健康に問題になる状態ではない」と繰り返してきましたが、東京大学の小佐古教授は、政府の小学校での安全基準は問題(危険)で直ちに変更することを求め、内閣官房参与を辞任する涙の会見を行いました。

第一原発では、炉心溶融が起きていることもようやく発表され、日本のデータ公表の遅さに外国は、不信感を募らせています。

放射線量の被曝の「安全さ」については、様々な議論が飛び交っています。そもそも、「福島原発事故で何が起きたのか、そこで何が問題なのか、原子力技術は今後どうあるべきか」を原子力技術の発達の歴史を振り返りながら検討していきたいと思います。

(月一回全10回、2012年3月まで)

第一部 福島第一原発で起きたこと

(1) <7.2土> **福島原発事故のあらましと問題点** (イントロダクション+映画)

高橋智子(山梨大学准教授)

(2) <7.30土> **福島原発で起きたこと —その正確な実態—**

館野 淳(元中央大学教授)

(3) <9.3土> **福島原発事故の放射能問題 — 原爆・原発・放射能—** 野口邦和(日本大学専任講師)

第2部 日本の原子力の流れ

(4) <10.1土> 戦中の日本の核開発と広島長崎の衝撃

山崎正勝東工大名誉教授

(5) <11.5土> 戦後の原子力の議論(1952年~1955年) 学術会議・茅・伏見提案から原子力基本法へ

山崎正勝東工大名誉教授

(6) <12.3土> アイゼンハワー「アトムズ・フォー・ピース」演説から日米原子力協定

山崎正勝東工大名誉教授

(7) <1.14土>、英国製コールドジャーホールから米国製原子炉の導入、原子力発電の本格化(奥田謙造+)

第3部 日本の原子力とエネルギーの将来の歴史

(8) <2.4土>、原子力発電をめぐる制度と産業の流れ—原子力委員会からの制度的変遷と、原子力産業、原子力をめぐる科学者たち

(講師未定)

(9) <3.3土> エネルギー・環境から見た原子力—

高橋智子(山梨大学准教授)

(10) <3.24土> 総括的議論： 今後どうすればいいのか

配付資料代若干をいただくこともあります。第4回目以降は、若干変更があるかもしれません。予定変更は、ホームページでお知らせします。

第1回目 第2回目の会場：中野勤労福祉会館は、中央線中野駅下車5分(南口)線路沿い新宿方面へ電話:03-3380-6946 <http://www.mmjp.or.jp/rmc-jyosai/map/nakakinro.htm>

以後の会場は、ホームページに掲載します。